

[2] 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題選択		
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	● あり	○ なし	
<p>総評</p> <p>形式・分量は例年通りである。難易度については昨年と比較して数Ⅱ分野はやや易化、数Ⅲ分野はやや難化であり、全体としては昨年並みといえる。特に数Ⅱ分野については受験生が見慣れた問題で誘導も丁寧であるので非常に解きやすかったと思われる。一方、数Ⅲ分野においては最初の設問でつまずくと高得点は難しく、差がつきやすかったといえる。</p>			

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	[1]三角関数 (最大・最小)	30点	[1]典型的な問題で誘導も丁寧なので取り組みやすい。合成は本試験では久しぶりの出題である。
	[2]指数・対数 (不等式)		[2]典型的な問題であるが、自然数解を考えるとところは目新しい。最後の設問では具体的に数値を代入することでも解決できる。
第2問	微分法・積分法	30点	易しかった昨年と比較しても計算量は少ない。さらに、面積に関する公式を知っていれば、より計算量を減らせる。 「図形と方程式」に関する設問はなかった。
第3問	数列	20点	数列に図形が絡むのはセンター試験としては目新しい。漸化式を作成したり、それを解いたり、和を求めたりと内容が多く忙しい。手早く処理するには相応の実力が必要。設問と選択肢に関して不親切な部分が見られ、あらかじめ全体に目を通しておくことが必要。
第4問	ベクトル	20点	正四面体・正四角錐ではなくやや複雑な四角錐を題材としている。設問は分点、交点、内積と典型的であり誘導も丁寧であるが、受験生が苦手としている分野であり差がついたであろう。
第5問	統計とコンピュータ	20点	平均、分散、標準偏差、相関図という基本的な流れである。第一回戦の人数が多いので、仮平均などを用いるなどしないと平均の計算に手間取るかもしれない。相関係数に関する計算はなく、(3)の整数解問題、(5)の変量 r など目新しい部分もあるが、例年通り取り組みやすい問題である。